

名前 _____ 年組 _____

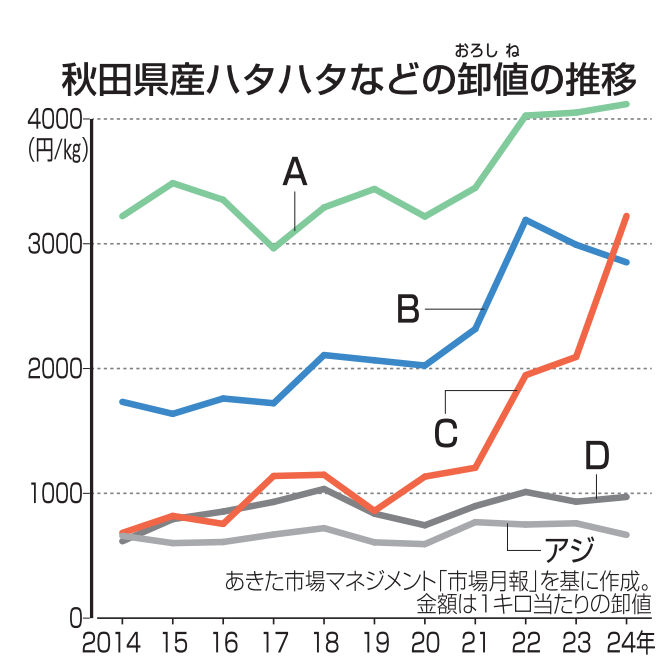
県産ハタハタ、マグロ並み

卸値

秋田市公設地方卸売市場で昨年12月に取引された秋田県産ハタハタの卸値が、マグロ並みの水準に達したことが、秋田魁新報のまとめで分かった。1キロ当たり3223円となり、2014年12月に比べ4・7倍に高騰。メバチマグロ（2851円）を上回った。

14年時点の県産ハタハタの卸値は1キロ当たり683円だった。19年まではマダイやアジと同価格帯で推移していたが、22年から高騰が目立つようになり、24年は前年の1・5倍の3223円に上昇。伸び率は14年以降で最大だった。折れ線グラフ。

刺し身やすしネタとして人気の本マグロ（4119円）との価格差は、14年時点の約2500円から約900円まで縮まった。



単価高騰の背景にあるのは、漁獲量の大幅な減少だ。秋田県漁業協同組合によると、今季の県全体の漁獲量は昨年12月末時点で13・4トで、昨季（108・1ト）の約1割にとどまった。丸水秋田中央水産でハタハタの取引を担当する松淵正平さん（40）は「これほどハタハタを集めるのに苦労したのは初めて」と語る。

記録的不漁に伴い、市場に回る県産ハタハタの量も著しく減少した。

県産ハタハタの卸売数量は14

年時点で155・8トに上り、市場シェアの8割超を占めていたが、24年は4・8トに激減。シェアは1割に低下した。

県産ハタハタの単価高騰に加え、今季目立ったのが北海道産の取扱量増加。これまでは取り扱いが少なかったが、24年の卸売数量は前年比5倍超の35・1トに急増。全体の7割超を占めた。

松淵さんによると、今季の北海道は秋田よりも水揚げが安定し、少しでも多くのハタハタを県内に流通させるために仕入れる量を増やしたという。ただ、「今季はたまたま北海道産が確保できたが、来季も同じようにいく保証はない。水揚げが年々減少する中で、安定した供給を維持するのは一層難しくなるのではないか」と話した。

※【卸値】生産者などから商品を仕入れる卸売業者が、小売業者に商品を販売する価格。

※【高騰】物の値段が急に上がること。

秋田魁新報2025年1月23日付より。記事は手直ししています。

1 「秋田県産ハタハタなどの卸値の推移」を表した折れ線グラフのA~Dに当てはまる魚を次から選び、番号を書きましょう。

A B
C D

- ①ハタハタ ②メバチマグロ ③サンマ ④本マグロ ⑤マダイ

2 傍線部の「漁獲量の大幅な減少」と同じ意味で使われている言葉を探して書きましょう。

3 記事を読んで分かったことを学級内で発表しています。記事の話題や内容を正しく読み取っているのはだれですか。

ゆうまさん

同じマグロでも、メバチマグロと本マグロの値段は、かなり違うんだなあと思いました

あゆみさん

秋田県産ハタハタは、本マグロと同じで刺し身やすしネタとして人気だったことが分かりました

まさとさん

秋田県産ハタハタが年々取れなくなって価格も上がったことで、私たちの食卓に並ぶことはますます難しくなるかもしれないです

あいこさん

北海道産は水揚げが安定しているから、来年も秋田県内にたくさん流通することになるようです